

令和4年度 学校評価報告書

学校名	三田市立学園小学校
-----	-----------

1 学校教育目標

「仲良く 元気に がんばる子」
 ～自らをみがき 未来をひらく 心豊かな児童の育成～

2 今年度の学校重点目標

- ①確かな学力の育成
- ②特別支援教育の充実と推進
- ③生徒指導の充実
- ④人権教育・道徳教育の深化・充実
- ⑤防災教育・健康・安全の充実
- ⑥社会に開かれた教育課程の推進
- ⑦風通しの良い職場風土

3 総合的な自己評価

徐々に教育活動の制限が解除されていく中、日々の教育活動や行事などが以前のように実施できてきている。しかし、感染症対策を行っての教育活動において、学力の伸長・人との関わりなどいろいろな場面で課題がみられた。児童の実態をしっかり把握し、どのような力をつけていくことが必要か全職員で共通理解し、課題を見据えた具体的な提言、改善していくための方向性・手だてを検討して次年度に引き継ぐ必要性を感じる。

4 総合的な学校関係者評価

基礎学力向上につながる朝読書や清掃活動後のチャレンジタイムなどが、子どもたちの日常に定着しており、今後も継続されることを期待する。また、それらに加えiPad等の端末を利用した取り組みも更に推進されることを期待する。

5 評価結果

自己評価			学校関係者評価
	評価項目(取組内容)	評価結果及び分析	改善の方策
教育課程	教育課程の編成(週時程・日課表・行事等)は適切である。	・ほぼ適切であるが、週時程に関しては、4校時終了から5校時開始までの間が慌ただしいと感じている教員が多い。	・下校時のバスの時刻があり後ろには時程をずらせない為、本校の児童にどのような力が必要かを第一に帯時間の見直しを中心に考える。
	各教科・領域における授業時数は適正に確保できている。	・年間通じ学級閉鎖はあったが、授業時数は適正に確保された。	・5年生においては、6校時の日を2日程度増やすと共に6校時の時間を15分延長するなど授業時数に余裕を持たせた。 ・休校や学級閉鎖など不測の事態を想定し、授業時数の確保と見直しを持ったカリキュラムの策定を行う。
学習指導	読み・書き・計算の基礎的な学力をしっかりと身につけている。	・漢字、計算においては全学年平均点 80 点以上を目標にチャレンジタイムやミライシードのドリルパーク等を活用しながら取り組みをすすめた。 ・おおむね目標は達成しているものの、理解定着が難しい児童も比較的多く在籍している。	・チャレンジタイムでの計算プリント学習や端末を使つてのドリル学習も併用しながら、計算力の定着と向上を図りたい。 ・がんばりタイムやスクールサポーター等支援員の活用を図り個別の支援を充実させる。
生徒指導(生活指導)	児童がすすんであいさつできるように指導にあたっている。	・後期児童アンケートでは87%が、保護者アンケートでは78%が肯定的な評価となっている。昨年度より少し評価が下がっている。	・引き続き、児童会のあいさつ運動や保護者、児童への啓発を行い、自発的に挨拶ができるようにする。
	いじめや不登校の問題に対して見逃すことなく組織的に対応している。	・学校いじめ防止基本方針にもとづき、担任一人に任せることなく、すぐに対応チームを母体とし情報共有、保護者対応を協議できた。 ・月一回開催の校内・生徒指導委員会の定例化により気になる児童の様子を交流し共通理解することができた。	・いじめを見逃さない早期発見、早期対応に向けて、今後も「報連相」の徹底を図る。気になる児童について情報交換ができる学校風土づくりを推進する。 ・月一回開催の生徒指導委員会により定期的に全教職員で児童の様子を共通理解し、常に意識化する。 ・気になる児童の言動については、必要に応じて保護者との連携強化を図る。その際には、学校側は複数教師で対応する。 ・児童のよりよい成長を促せるよう、学校と保護者が協力できるような関係を築くように努力する。
開かれた学校・地域・保護者と	保護者や地域の方の情報や願いを聞く機会を積極的に持っている。	・徐々に授業参観、人権参観、学級集会、個人懇談など保護者に来校していただく機会が増え、保護者の思いを聞く機会が戻りつつある。 ・地域の方々との関わりはまだ戻っていないのが現状である。関係者評価等で地域の方の情報や願いを把握することに努めた。	・今後の学校での取り組みについて、を学校だよりや学年だよりを通じ家庭や地域へ情報提供、情報発信をていねいに行う。また、必要に応じて説明責任を果たしていく。
	PTA・学校支援ボランティアとの連携により、教育環境整備を行い、地域の核となる学校づくりをすすめる。	・本校では、R2 年度より本格実施となった学校支援ボランティアの取り組みもコロナ禍の為、十分活用できていない。 ・家庭科ボランティアやながしお農園など地域との連携も徐々に戻りつつある。	・来年度からは、教育活動への制限がなくなっていくことが予想される。以前の取り組みを検討し積極的に地域や保護者との連携をすすめていきたい。

6 学校自己評価の実施状況について

時期	内容
1学期	教職員による学校評価、児童・保護者アンケート実施
2学期	教職員による学校評価、児童・保護者アンケート実施
3学期	教職員による学校評価、児童・保護者アンケート結果公表
行事ごと	保護者へのアンケートの実施
※学校自己評価…外部(児童生徒・保護者・地域等)アンケートの実施を含む	

7 学校関係者評価委員会の活動について

時期	内容
7月	委員委託、本年度の活動計画、学校経営方針の説明、年間計画等
10月	運動会参観
11月	音楽会参観
12月	2学期の学校評価、3学期の教育活動説明
3月	本年度のまとめと次年度に向けて(紙面報告)

8 学校評価の公表について

時期	手段	内容	添付
4月	学校だより	学校教育目標等の周知	
3月	学校だより	学校評価の結果及び今後の改善策等を記載し保護者に配布	○
3月	学校ホームページ	学校評価の結果及び今後の改善策等を掲載	

※ 公表の具体がわかる印刷物等がある場合には添付願います

※ 行は、適宜加除願います。